

ユネスコ主催 第6回国際成人教育会議 CONFINTEA の成果をどう活かすか
- 成果文書 The Bélem Framework for Action「ベレン行動枠組み」をめぐって -
(主催 第6回国際成人教育会議 (CONFINTEA) のための国内「草の根会議」)
2010年4月10日

第6回国際成人教育会議の概要と「草の根会議」のあゆみ 荒井容子

(「草の根会議」事務局 法政大学、社会教育推進全国協議会)

「第6回国際成人教育会議の概要」については、先日、2010年2月19日に、国立教育政策研究所主催で行われ、成人教育に関する国際セミナー - post-confintea、で報告させていただいたときに作成したレジュメ(第6回国際成人教育会議を振り返って CONFINTEA の成果と課題)をもとに、紹介します。「草の根会議」のあゆみについては、『市民社会組織レポ - ト』、「意見交換会」での提出文書などをもとに紹介します。

成人教育に関する国際セミナー - post-confintea

- 第6回国際成人教育会議の成果と課題 - (国立教育政策研究所)

2010年2月19日(金) 於 霞ヶ関ナレッジスクエア

第6回国際成人教育会議を振り返って CONFINTEA の成果と課題

荒井容子 Yoko Arai

(第6回国際成人教育会議のための国内「草の根会議」
社会教育推進全国協議会 (JAPSE)
法政大学)

1 CONFINTEA の全体の概要・特徴

(1) 参加国、参加者数 156カ国、約1500人 - 過去最高

Cf. 第1回 106人 27ヶ国

第2回 194人 50ヶ国 46 NGO 49人

第3回 (約400名 1)人 85ヶ国 37 International NGO.

第4回 841人 122カ国、37 International NGO

第5回 1411人 130ヶ国または134ヶ国 1507人 (NGO 478)

National Report は154ヶ国が提出

(Global Report on Adult and Learning Education より)

Cf. 第1回 23 第2回 35 第3回 88 第4回 76 第5回 68

(2) 準備過程の重視 - 丁寧な取り組み

会議準備過程の積極的な組織化

- ・ NGO の準備過程からの参加の積極的受入れ
- ・ 準備過程情報の積極的公開

1) 準備のための審議会 (2007年3月開始) による企画検討開始

2) NGO も含む、準備過程への多様な立場からの参加の重視

3) National Report の重視 - 各国の積極的参加重視と各国内での「参加」重視の促進

従来に増す丁寧な働きかけ

新たな仕掛け - UIL によるガイド・ライン 8項、7項

各国政府に対し、多様な組織 (民間団体も含む) 間での
討議を経た準備も求める。

4) リ - ジョンごとの準備会議の重視

Regional Preparatory Conferences

2008年 9月 10-13日 Latin America and the Caribbean (Mexico City-Mexico)

10月 6- 8日 Asia and Pacific (Seoul-Republic of Korea)

11月 5- 7日 Africa (Nairobi-Kenya)

12月 3- 5日 Europe and North America and Israel (Budapest-Hungary)

2009年 1月 5-7日 Arab States (Tunis-Tunisia)

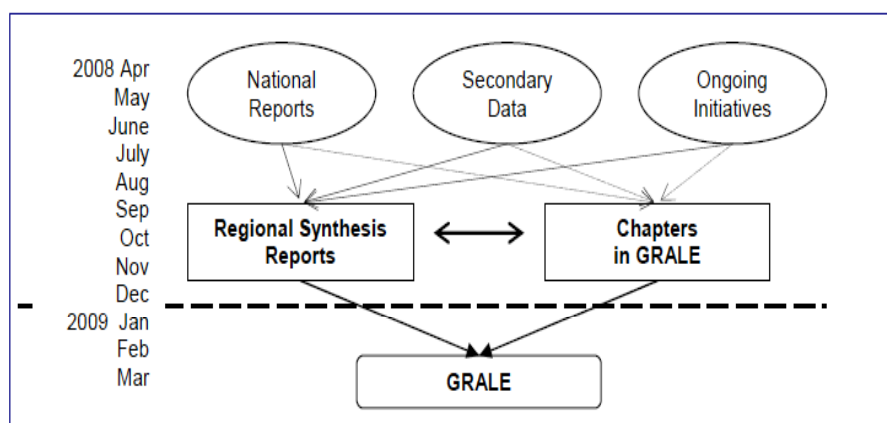
.

2月 11-13日 Meeting of francophone countries in preparation for

CONFINTEA VI (Lyon, France)

cf. 3月 31-4月 4日 A Time for Learning: Paving the Way to CONFINTEA :
the Adult Learners' Voice (Edinburgh, Scotland UK)

5) 成人教育の情勢把握とそれをふまえた成果文書草稿作成過程の構造化



(3) NGO、CSO (市民社会組織) による積極的な取り組み

1) 早くからの NGO によるユネスコへの働きかけ

CONFINTEA Follow-up 過程からの継続的とりくみ

2003年 Mid-term Conference

2005年 10月ユネスコ総会での採択に向けた NGO の働きかけ

その後の継続的働きかけ

2) 準備会議への積極的取り組み等

各リ - ジョンの国際 NGO が事前会議やレポート (提言) を作成。

CEAAL (成人教育ラテンアメリカ協議会) ASPBAE、

African Platform for Adult Education、

ICEA ほか (カナダフランス語圏 CSO グループ)

cf. 3月 31-4月 4日 A Time for Learning: Paving the Way to CONFINTEA :
the Adult Learners' Voice (Edinburgh, Scotland UK)

??月??日 [International Adult Learners' Charter](#)

by Global Learners' Network

また ICAE 2008年 7月 CONFINTEA Key Issues at Stake

ICAIE による 2 回のネット上でのセミナー -

2008年 5月 Virtual Seminar 2009年 10月 Education Debate

3) NGO、CSO 諸組織全体での取り組み

FISC (国際市民社会フォーラム) の開催 2009年11月29 - 30日

約300人参加

市民社会組織からの提言をまとめていく取り組み ~ FISC の企画・実施を通して

[Civil Society Advocacy Paper for CONFINTEA](#)

4月22日 9月16日 updatec 11月28日? final draft to contributions

12月1日

[CONFINTEA Civil Society Caucus 'From Rhetoric to Coherent Action'](#)

本会議中の積極的な取り組み 討議で、政府代表への働きかけで

the Bélem Framework for Action の修正に向けて

・ [CONFINTEA Civil Society Caucus](#) を活かして

・ the CSO Womens' Caucus による取り組み

本会議直後の提言

12月4日 **Final Reaction from the Civil Society Caucus**

2 CONFINTEA 本会議の構成と

成果文書 the Bélem Framework for Action の概要-特徴

(1) 本会議の構成にみられる特徴 - 政策提言にむけた構造 (4日間)

全体討議 (三つの提言と一つパネルディスカッション、5つのラウンド・テーブル)

体系的に討議が組織されていたといえる。

32のワ - クシヨップ 参加者からの企画を募って設置された (4コマ枠で並行開催)

.....

〔1日目〕

開会式 開会挨拶、会議の目的と手続きの確認、議長他の選出

Keynote Address

“ Living and Learning for a Viable Future: The Power of Adult Learning ”

(“ 信じるにたる未来に向けた生活と学習: 成人の学習の力 ”) <大会テ - マ>

Panel “ Inclusion and Participation in Adult Education ”

(成人教育における包摂と参加)

〔2日目〕

Keynote Address “ Confronting Global Issues ” (直面する地球規模の課題)

Round Table 1 “ Policy and Governance of Adult Education ”

(成人教育のための政策・政治)

Round Table 2 “ Financing of Adult Education ” (成人教育の財政)

Parallel Workshops 8 / First Session of Commission

Parallel Workshops 8 / Second Session of Commission

〔3日目〕

Keynote Address “ Towards Lifelong Learning ” (生涯学習に向けて)

Round Table 3 “ Literacy as a Key Competency for Lifelong Learning ”

(生涯学習の鍵となる能力としての識字)

Round Table 4 “ Assuring the Quality of Adult Education and

Assessing Learning Outcomes ”

(成人教育の質の保障と学習成果の評価)

15:00 < Deadline for Member States to Submit individual amendments to
the Bélem Framework for Action to the Drafting Committee >

Parallel Workshops 8 / Third Session of Commission

Parallel Workshops 8 /

〔4日目〕

Keynote Address “From Rhetoric to Action” (美辞麗句(言葉)から行動へ)

Round Table 5 “The Way Forward” (今後にむけて)

- 予算措置、政策実施、モニタ - とフォロ - アップ〔監視と成果確認〕
(- 荒井)

閉会式 総括報告者 (the Rapporteur-General)による口頭報告
the Bélem Framework for Action 修正版の提示と採択
閉会挨拶

Cf. CONFINTEA では35のテ-マ別 Working Groups での討議(後のパンフではアジェンダでの10項目にあわせて、29の会議報告ブックレットにまとめられている)。

(2) 成果文書 *the Bélem Framework for Action* (最終版)の概要の特徴

構成 前文〔1~6〕(通し番号)

生涯学習にむけて〔7~9〕

提言〔10〕

成人の識字〔11(a)~(h)〕

政策〔12(a)~(e)〕 (法、制度 - 荒井)

政治〔13(a)~(d)〕

財政〔14(a)~(h)〕 (支出、資金 - 荒井)

参加、包摂、公平(公正)〔15(a)~(i)〕

cf. (d) コミュニティの多面的な学習スペース及びセンタ - をつくり、ジェンダ - に付随するライフコ - スから特に求められることに配慮して、女性のためのあらゆる種類の成人の学習・教育プログラムへのアクセスと参加を改善する。

質〔16(a)~(f)〕

cf. 「学習及び教育における質(の問題)は、継続的な関心と継続的な発展を必要とする、全体的、多面的な概念であり、実践である」・・・

(c) 成人教育者の訓練、力量形成、雇用環境の改善と専門職化、例えば高等教育機関、教員組織、市民社会組織と協力することによって

***the Bélem Framework for Action* のモニタ - と実施〔17(a)~(m)〕**

ANNEX (付録) 現状報告 直面する地球規模の教育諸問題と課題

(3) Global Report on Adult Learning and Education (GRALE) について

executive summary より 概要

第1章 成人の学習と教育の場合

1.1 地球規模での教育及び開発計画(提言)の中での成人教育

1.2 生涯学習の視座の中での成人教育

1.3 成人教育を強化する必要

第2章 成人教育の政策環境と政治

2.1 成人教育における政策の発展

- 2.2 成人教育の調整と規定:政治的諸問題
- 2.3 結論
- 第3章 成人教育の提供
 - 3.1 成人教育の多様性
 - 3.2 成人教育理解の国際的類型
 - 3.3 結論
- 第4章 成人教育における参加と公平
 - 4.1 全体的に低い参加
 - 4.2 参加における不平等
 - 4.3 成人の学習と教育へ接近の低さと不平等の多面的・構造的な原因
 - 4.4 結論
- 第5章 成人教育における質
 - 5.1 質の指標としての適切性
 - 5.2 質の指標としての有効性
 - 5.3 質の評価
 - 5.4 質を保障する鍵としての成人教育者
 - 5.5 結論
- 第6章 成人教育の財政
 - 6.1 成人教育財政の現状: 有効なデ - タの概況
 - 6.2 成人教育への低い支出 (投資)
 - 6.3 担い手 (ステ - クホルダ -) の貢献:
誰が支払うべきかの決定における経験と問題
 - 6.4 資源動員における前進
 - 6.5 結論

3 CONFINTEA の成果と課題 - どう評価するか

(1) 第6回会議の歴史的位置 - 1949年第1回以来の歴史からみて - 目的の発展

ほぼ12年に1回、ユネスコのカテゴリ - 2レベルの政府間会議として開催されてきた国際成人教育会議

その目的の発展 ~ 国際関係の展開の中で

第1回 国際機関のもとでの初めての開催 - 戦争への反省等々 民間関係者

第2回 冷戦

第3回 第3世界の政府関係者の参加の増加、生涯教育論への関心の高まり
- 政府関係者中心の会議の雰囲気へ

提言の有効化を目指す 「勧告」へ

ナイロビ宣言「成人教育の発展のための勧告」1974年

第4回 成人教育に関する国際NGOの結成による働きかけ

不況 生涯教育政策の後退

(学習権宣言採択の一方で討議の形式化 - 不毛性)

~ 国際識字年1990年、Adult Education for All 会議

第5回 NGOの積極的働きかけ

成果文書における数値目標、具体的実践課題の提示

United Nations Week of Adult Learning 他

フォロー - アップの重視

しかし、中間総括会議（2003年）での確認
世界全体の傾向としての成人教育政策・財政後退

the Right of Learning(第4回) あらゆる権利の根幹に位置する権利 参加による
社会発展の鍵となるのが成人の学習(第5回)
地球規模の諸問題 貧困、環境破壊、不公正 etc さらに“移民”
成人教育の重要性の再度の強調 しかし、政策的後退

そこで、第6回では、多様な社会運動が、地球規模の社会問題を地球規模で克服すること
をめざして掲げているスロ・ガン“Another World is Possible”(cf. 世界社会フォーラム)
と呼応するように、

大会テーマは、

“Living and Learning for a Viable Future: The Power of Adult Learning”
 (“信じるにたる未来に向けた生活と学習：成人の学習の力”)

また第6回では会議の原則としてまとめた3項目(準備のための審議会(2007年3月))

1 「成人の学習と教育」が生涯学習の重要な構成要素であり、また生涯学習を推進する
要因でもあるということ

2 現行の教育のための、また開発のための重要な行動指針の具体化にとって、「成人の
学習と教育」は決定的に重要な役割をもっていること

3 “From Rhetoric to Action”

「第三に、CONFINTEA は次のことを実施することを心底重視する。つまり、『美辞麗句から
行動へ』(“From Rhetoric to Action”)移行するために、政治的契機と関与を生み出し、
実施のための道具を提案する。」(Report of the First Meeting of the Consultative Group
in Preparation of CONFINTEA ,1-2 March 2007)

(2) CONFINTEA の「課題」(成果を評価する基準)を設定して

分析課題を提示してみると

1) 「成人の学習と教育」の現状と課題を、全世界規模で明らかにできたか。

日本において Global Report on Adult Learning and Education
the Bélem Framework for Action

複数の NGO レポート、CSO レポートと

「草の根会議」がまとめた『市民社会組織レポート』CSO レポートとの対比による分析

2) 『美辞麗句から行動へ』(“From Rhetoric to Action”)の観点から、どこまで前進できたか。

さらなる指標

2-1) 「成人の学習と教育」の重要性のアピール

世論に対してはどうか (関心の低さ 直後の COP 地球温暖化会議との対比)

2-2) 政策への影響力

日本政府にとってはどうか?

2-3) 運動への影響力 またに to Action の課題として

第6回国際成人教育会議のための国内「草の根会議」について

その成果と課題を解明する必要

参加諸組織ごとの分析の必要